

研究協力をお願い

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

C. difficile 感染症と制酸薬の使用に関する単施設観察研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年4月1日から2021年3月31日の間に、昭和大学江東豊洲病院でC. difficile 感染症の検査が陽性であった方。

2. 研究目的・方法

C. difficile 感染症は抗菌薬の投与に伴っておこる有害事象1つであり、医療関連感染症の代表的な疾患になります。近年、抗菌薬だけでなく、制酸薬の使用はC. difficile 感染症の発症と再発の両方に関与している可能性があることがわかってきました。そして、C. difficile 感染症の再発は半年以内の死亡率を3割上昇させるリスク要因であることから、C. difficile 感染症になった患者さんでは不必要な制酸薬の中止を推奨されています。しかし、制酸薬の中止による再発予防や予後改善効果に関しては明確なエビデンスがなく、くわえて臨床現場で制酸薬がどれくらいの頻度で変更されているかはわかっていません。そこで本研究ではC. difficile 感染症患者における制酸薬の使用頻度と投与継続に関しての実態を調べるために調査を行うことといたしました。

対象は、2019年4月1日から2021年3月31日の計3年間に、昭和大学江東豊洲病院においてCD毒素の検査結果が提出され、トキシンあるいは抗原の検査結果が陽性であった患者さんといたします。対象となる方のデータは、病院内の診療録管理室にて、「3. 研究に用いる試料・情報の種類」の項目に記載しました情報を取得します。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会にて審査後、委員会から発行される結果通知書の承認日より、実施機関の長の研究実施許可を得てから ～ 2022年 3月 31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

C. difficile 感染症の患者さんの症例の情報（年齢、性別、既往歴、現病歴、併用薬、入院中の治療内容、診療科、C. difficile 感染症の再発の有無、転帰）

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院 総合診療科

氏名：原田 拓

住所：東京都江東区豊洲 5-1-38

電話番号：03-6204-6000

研究責任者：昭和大学江東豊洲病院 総合診療科 原田 拓